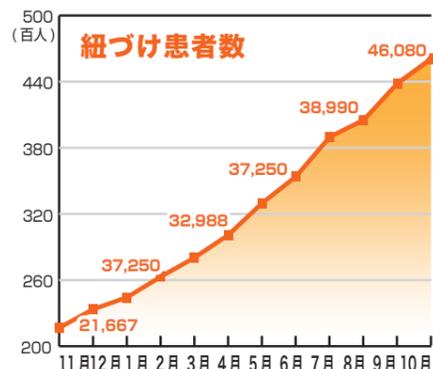
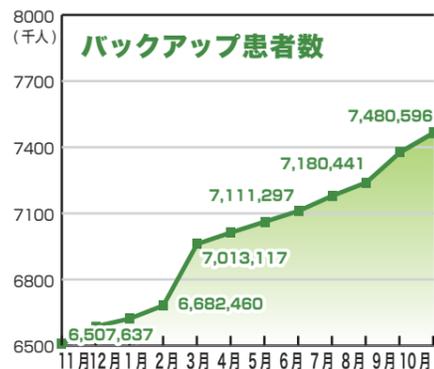


データ推移

バックアップ患者数は前月比+103,442人、紐付け患者数は前月比+2,230人となりました。両データ共に、順調な増加傾向にあります。



電子カルテやお手持ちのパソコンで

MMWIN システムをご利用頂けます！

多くの参加施設様では、MMWIN がご提供した専用パソコンで MMWIN システムをご利用頂いておりますが、設置スペースが無い場合、電子カルテやレセプト用のパソコンで代用できないかとの質問や要請を頂いております。お使いの電子カルテもしくはレセプトベンダー様のご承認といくつかの設定が必要となりますが、技術的にも可能であり、実際既に多くの施設様で所有されているパソコンをご利用頂いていることを改めてお伝えいたします。

電子カルテやレセプトのパソコンをお使いになることで、専用パソコンを起動する手間や煩雑さが軽減され、MMWIN システムをよりシームレスにご利用頂くことができます。

ご興味がある施設様は是非 MMWIN 事務局にお問い合わせください！

*施設内ネットワークの設定やパソコンへの電子証明書インポートや各種設定等が必要であり、パソコンのスペックにも一定の条件があるため、施設内のご事情やお手持ちのパソコンの機能・性能によってはご利用いただけない場合があります。

以前よりお知らせしておりますが、MMWIN 通信を郵送の他に、各施設の MMWIN 使用者に直接メールで送付しております。また、ユーザーズミーティング開催のお知らせ等も送付致しますので、貴施設の MMWIN 端末使用者の方のメールアドレスを何件でも構いませんので、可能な範囲でお知らせください。

『koho@mmwin.or.jp』まで、施設名と可能であれば担当者様名をご記入の上、ご登録をお願い致します。右記の QR コードより、メールを送付いただくことも可能です。既にご連絡くださった施設様のアドレスは登録しておりますので、直接配信を開始しております。ご登録、誠にありがとうございました。合わせて、ホームページにて、MMWIN 通信や、宮城県医師会報掲載ページのバックナンバーを公開しております。是非、ご覧ください。



MMWIN

発行：一般社団法人 みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

〒980-8633 仙台市青葉区大手町 1-5 宮城県医師会館 6 階 URL: http://mmwin.or.jp
サポートセンター TEL: 022-399-6880 サポートセンター E-mail: support@mmwin.or.jp
事務局 TEL: 022-395-6312 FAX: 022-395-6313 E-mail: office@mmwin.or.jp

当協議会からのメールを受信できない場合がございますので、「@mmwin.or.jp」からのメールを受信できるように設定してください。『MMWIN』、『みんなのみやぎネット』は、一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会の登録商標です。※本誌の収録内容の無断転載、複写、引用、改変等を禁じます。

©2017 MMWIN



川崎こころ病院様

川崎こころ病院様にて、回復期リハビリテーション病棟担当医の市川信通先生、地域医療連携室 医療ソーシャルワーカー阿部朋美様に、MMWIN の利用状況、今後への期待等についてお話を伺いました。



市川信通先生

みやぎ県南中核病院との紹介状連携を開始いたしました。紹介状の文書連携も含め、現在の活用状況はいかがでしょう？

(市川先生) 紹介状について、MMWIN 上で問題なく参照できた。これまで紹介状上に記載されていた情報が MMWIN 上で参照可能となり、医師が紹介状に記載する内容(採血結果の経過等)を省略できる。紹介状で不足している情報の拾い上げもできる。急性期病院ではそれほど必要性を感じないかもしれないが、慢性期病院には多くのメリットがある。今後は紙情報を取り込む必要がない運用に取り組んでほしい。

(阿部様) 運動器リハビリテーション担当医の大浪更三先生を始め、他にも2名の精神科医師からも便利であるとの声をうかがっている。さらに看護師にとっても、転院前に患者情報を確認できるのは非常に助かる。施設毎に転院申込書の内容は違うが、看護師やリハビリテーションスタッフが必要な情報が共有されると良い。



MMWIN スペース

MMWIN への期待、活用に向けての改善点などありますでしょうか？

(市川先生) 画像連携について、CD のやり取りが不要になるため大いに期待できる。

当院から介護施設へ紹介する際、既往歴が大変多いため、メモ機能を用いて「既往歴は MMWIN で参照して下さい」と記載したことがあるが、相手が見ているかどうか分からない。確認や受取の通知が手軽にできるようにしてほしい。

まずは MMWIN の良さを理解してもらう必要がある。全国の地域医療連携の良い点を参考に、成功例を増やす必要がある。



地域医療連携室の皆様

編集後記

後記：川崎こころ病院様では院内で MMWIN を積極的に活用されており、その中から貴重なご意見や今後に対する期待のお言葉を頂きました。これからもより多くの御施設で MMWIN がお役に立てるよう努めて参ります。(井戸・三浦)

仙台市老人福祉施設協議会様 全施設長会議での MMWIN のご紹介

先月の MMWIN 通信でもご紹介させていただきました、仙台市老人福祉施設協議会様への MMWIN のご紹介につきまして、10月2日の全施設長会議で、MMWIN のご説明を実施する機会をいただきました。

当日は、同協会の施設長の方々に、MMWIN の設立経緯や現在までの取り組み実績の報告に加え、MMWIN 活用による医療介護連携の姿および費用対効果や業務負担の軽減等施設様のメリットをご説明致しました。また、入居時の診断書受領、健康状態の把握、要介護認定での煩雑な手続き等を MMWIN 活用によりスムーズに進められる点や、高齢者、認知症の方々の診療記録の保存といった観点からの有用性もご紹介させていただきました。本協議会様では、庄子会長、折腹副会長から、会員施設様に対し、医療介護連携で MMWIN を推奨する旨のお言葉までいただき、今後は、更に MMWIN に対する理解を深めていただき、ご活用いただけるよう、仙台市の各支部での説明の機会をいただいております。

仙台市の介護福祉施設様をはじめ、宮城県内の介護福祉施設様に MMWIN をご理解いただき、医療介護連携をサポートする情報インフラとして MMWIN をご活用いただき、お役に立てるように尽力したいと考えております。

栗原中央病院で MMWIN のブース開設！

10月2日（月）より栗原市立栗原中央病院の1Fロビーにおいて MMWIN の患者加入ブースを開設いたしました。MMWIN のブース開設は東北大学病院からスタートし県内6ヶ所目になります。県北では大崎市民病院に次ぎ2ヶ所目となります。まだ、開設から2週間と日は浅いのですが、すでに100名以上の患者に加入申込をいただきました。これも偏に、ブース開設までの打合せに携わっていただいた栗原市立栗原中央病院の皆様方、患者へお声がけ頂いた医師・看護師の皆様のご協力の賜物と思っております。

今後は加入数 2,000 名を目指してブーススタッフも積極的な加入活動を行ってまいります。



涌谷町社会福祉協議会「ゆうらいふ」の参加が決定しました

9月28日、涌谷町社会福祉協議会「ゆうらいふ居宅介護支援サービス」から参加の申込をいただきました。

これにより涌谷町民医療福祉センター内の「涌谷町国保病院」を中心に「涌谷町老人保健施設」「涌谷町訪問介護ステーション」に加え涌谷町社会福祉協議会「ゆうらいふ」と涌谷町民医療福祉センターを核とした地域医療介護連携が進み涌谷町が進める地域包括システムの構築の具体化に寄与することになります。今後も切れ目のない医療と介護サービスの提供をめざして、ケアマネージャーと協力しながら加入申し込み数を増やし MMWIN を活用していただくよう働きかけて参ります。



大崎市 大崎市民病院様

大崎市民病院様では、平成27年ブース臨時開設時期を含めると4,000人を超える加入者数となりました。平成29年1月からは毎日加入ブースを開設させていただき、患者加入の促進を図っております。今回は、院内でMMWINの運用にご尽力いただいております、地域医療連携室係長岩淵匡志様、情報管理課係長渡邊裕樹様、主査二宮圭様にお話を伺わせていただきました。

地域医療連携室 係長岩淵匡志様

院内では MMWIN にどのように関わっていますか？

昨年の診療報酬改定に伴い、脳卒中・大腿骨骨折に限らず、すべての疾患が地域連携パスの対象になりました。その中でも、心不全は高齢化に伴い今後ますます増加が見込まれます。地域連携パスを構築・運用することにより、地域全体で患者さんにとって安心・安全な医療を提供することができます。当院では、多職種による「ハートチーム」を立ち上げ、心不全地域連携パスの構築を検討してきました。連携する医療機関と医療情報を共有するツールとして、MMWIN を活用して地域連携パスの推進に努めていきたいと考えています。



左から渡邊係長、岩淵係長、二宮主査

心不全地域連携パスの MMWIN 運用についてお聞かせください

今回、当院の心不全地域連携パス専用の項目を MMWIN に構築していただきました。基本的に紙運用を想定していた地域連携診療計画書や診療情報提供書、看護サマリーを MMWIN のネットワーク上でやり取りできます。また、入退院を繰り返す患者さんについては、以前の治療歴や栄養指導、服薬指導、リハビリ指導内容といったさまざまな情報を確認することができ、よりスムーズな治療や医療連携も期待できます。

今後の MMWIN 運用に対する思いをお聞かせください

平成28年11月に宮城県地域医療構想が策定され、今後の医療を取り巻く環境が、かつてないほど大きな変化に直面しており、医療資源等が危機的状況になることが示されました。今後、医療機関相互の連携や地域に必要な医療が不足しないような対応がより一層重要になることが想定されます。MMWIN を活用して情報を共有することにより、更なる医療連携の推進に努めていきたいと思っております。そのためには多くの施設が参加されることを期待します。

情報管理課 係長渡邊裕樹様、主査二宮圭様

院内では MMWIN にどのように関わっていますか？

県北の地域医療連携に貢献できるように、できる限り MMWIN システムを利用できる院内環境の整備（相乗端末設定や医師加入促進等）を行っております。また、各外来から依頼された患者紐付け作業等、患者加入促進に向けた取り組みなども行っております。

MMWIN 促進についての活動をお聞かせください

MMWIN システムを活用する上では、病院側の利用者拡大と院内の環境整備、ならびに患者さんの同意にもとづいた加入促進が非常に大事なことを考えております。そのため、当院では診療科長会議等を通じ医師の加入促進として9月までに130人以上の医師から申込をいただき、利用する院内の環境整備も全ての外来診察室ならびに各病棟への相乗端末設定も行ってあります。また、患者さんの加入促進としては、MMWIN 事務局のご協力をいただき、今年から本院2階に専用ブースを設置しています。現在の加入患者数は4000名以上となっております。

今後の MMWIN 運用に対する思いをお聞かせください

当院における院内環境は整いつつあり、今後は MMWIN システムを活用した地域医療連携における運用構築が重要であり、多くの施設が参加されることが課題でもと考えております。近い将来、MMWIN システムが宮城県の地域医療連携システムとして機能することができれば、医療・介護または、医療機関・施設間・職種間等を超えた、患者さん中心の総合的なシステムになると強く感じております。